

## 知的障害者の手打ちそば体験を行いました

秋田県立横手支援学校は、秋田県の県南に位置し「かまくら」や「山と川のある町」で有名な横手市にある、知的障害のある子どもに対する教育を行う特別支援学校です。

この支援学校の教育活動の特色は『「横手が舞台」地域資源を活用した授業づくりと地域貢献活動の推進』とのことです。9月20日、この中等部の生徒さん5名と随行の先生5名が、修学旅行の行程として、研修センターでそば打ちを体験しました。

随行の小番（こつがい）先生のお話では、横手市の東側の山内地区では昔からそばを栽培し、そば祭り等のイベントを行っていることから、支援学校の教育活動としてそば打ち体験を企画したとのことでした。

体験に入る前に、講師の藤田さんがダウン症の方が二段位認定会を受験している動画を紹介し、障害者と一般社会を繋ぐ手段としてそば打ちは有用性が高いのではないかとコメントがありました。

体験は障害の程度により3組に分かれて、水回しから切りまでしていただいたところです。彼らは感情をストレートに出すと思われ、気に入った作業は夢中になるようですが、興味を感じないと思われる作業は手を出さず、椅子に座り込んでしまうこともあり、講師の皆さんも興味を持ってもらおうと、笑顔、笑顔で声のトーンを上げたり等々四苦八苦しでの指導となりました。

また、いつの間にか随行者の先生が夢中になって、講師の手と生徒と随行者の手、合わせて六つの手が木鉢の中で動いている状態で、とても効率的な？練りも見られたところです。

さて、体験後の昼食を兼ねての試食会は、好き嫌いを考慮し、好きなものをbuffet方式としてトッピングして食べる「ぶっかけそば」としたところ、3杯お代わりする子もいるなど大変好評でした。

最後に講師から3級認定書をそれぞれに手渡したところ、満足感に満ちた笑顔を見せてくれました。

研修センター 萩原 敏彦



